

会議名	平成29年度第1回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	平成29年8月30日（水） 午前10時～11時40分
開催場所	坂出市役所合同庁舎4階 大会議室
出席委員	高塚 創, 國時 忠能, 木原 光治, 土井 智司, 中橋 恵美子, 三野 八重子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

(1) 坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

●事務局

(資料1及び2により説明)

●会長

本年はまち・ひと・しごと創生総合戦略の中間年に当たるということで、それぞれの施策やKPIについて、こういうふうに改善したらどうか、新たにこういう事を加えたらどうかということに関して、広くご意見を頂ければと思う。

●委員

既に目標を達成しているものについては、このまま頑張ってくださいということで、特に議論する必要はないのかなと思うが、目標を達成できていないものについて、今後どうしていくか議論することが大事であると思う。また、次回の資料からKPIの達成度も表記していただければ、例えば一定の達成度未達の施策に絞って議論するという事も出来るようになると思う。

1番気になるのは、施策5の橋梁管理である。目標が補修箇所数121橋であるのに対し、現状値は数値的に大きくかけ離れている。また、課題としては膨大な事業費を要するとなっている。目標の達成はほぼ不可能だと思うが、そもそも、なぜこのような目標設定となったのか。

次に施策8のふるさと坂出応援寄付件数について、大幅に増えているので問題ないように見えるが、目標設定当時と今では、専用サイトの利用やクレジット決済の導入などもあり、100件という目標が当時は妥当な数値だったかもしれないが、現状では妥当な数値にはなっていないと思う。

ふるさと納税については、近隣の市町で爆発的に件数が増えているところもある。現状では2,000件を超えており、一見すると坂出市が頑張っているように見えても、近隣の市町の件数等を勘案したうえで、妥当な目標値を設定すべきと考える。

施策13の就職フェアについても、目標値に対して数値が遠いので、頑張らなければならない施策だと思う。私は、東京で開催されている香川県の移住・交流のイベント等に呼んでいただくことがあるが、坂出市はPRが出来ていない。人口動態を見ても、関東・関西圏に行きっぱなしの状態なので、そこからどう呼び戻すかということを考えなければいけない。私は、一定の都会暮らしをしながら移住をするのなら、交通アクセスの良さを考えると、高松市より坂出市の方が優位であると思っている。それにもかかわらず、転入者が伸びていないということは、何が原因なのかということをもう少し整理すべきであると思う。ここの施策も目標値からかけ離れているので、対策を検討いただいた方がいいと思う。

●事務局

施策5の橋梁管理については、橋梁を点検していく中で、想定よりも老朽化しているということで、修繕や改修にかなりの事業費を要している。また、補助事業等の関係もあり、1年間に実施できる箇所数が想定よりも少なくなっている状況である。ご指摘のとおり、当初設定した目標を達成するのは、現状、老朽化を把握した段階では難しい状況である。限られた予算の中ではあるが、優先度等を勘案して事業を進めて行きたい。

●会長

そもそも、この121橋という目標値は、どのようにして決定したのか。

●事務局

担当課である建設課が、当時作成していた計画に基づき設定した数値である。

●会長

総合戦略の「社会資本の維持管理と既存公共施設の維持管理」というテーマは非常に重要であると思うが、KPIの設定が橋梁管理1つだけというのが気になっている。道路や下水道等いろいろなインフラがある中で、なぜ橋梁管理だけなのか。

●事務局

明確な数値目標があるのが橋梁だけということで、KPIに挙げている。

●会長

他の社会資本の維持管理について、計画や課題はないのか。

●事務局

昨年、公共施設等総合管理計画を策定し、市が保有するインフラや公共施設すべての維持管理に関する基本的な考え方についてはとりまとめている。ただ、公共施設を集約するというところまでの個別計画はまだないため、数値としてKPIを設定できるものは、今のところ他にはないという状況である。全く施策がないという訳ではない。

公共施設の耐震化で言うと、平成27年度までが計画期間となっており、例えば学校関係では、平成23年度ぐらいまでに構造体の耐震化は100%終了している。現在は、外壁や天井などの非構造部材の耐震化を進めている状況のため、KPIの対象にはならなかったということである。

●委員

この会議は、市の中でも根幹になる上位の会議であると思う。

すべての担当課が出席するのは困難であると思うが、橋梁管理等は市民の命に関わる施策でもあることから、緊張感を持ってやっていただくためにも、担当課である建設課をはじめ、KPIの達成度が悪い施策の担当課は、出席するべきであると考えている。

●事務局

施策8のふるさと坂出応援寄付については、専門業者に委託したことに加え、制度改正の影響もあり、平成28年度から全国的に件数が増えている状況である。今年度についても、総務省より返礼品については適正な取扱いをするようにとの通達があり、坂出市としては、坂出市の特産品の紹介というような、本来の趣旨にあった形でのふるさと納税を実施している。

寄付件数や寄付金額を上げることが目標になってしまっただけでは、本来の趣旨からは離れてしまうと思うので、今後は体験型の返礼品等を通じ、坂出市をもっと広く知ってもらえれば良いと考えている。

●委員

100件という目標値については見直した方が良いと思う。

●事務局

今年度も28年度より若干上回るような状況であるため、目標値自体は見直す方向で考えている。

●会長

平成26年度が、件数の割に金額が高いのはなぜか。

●事務局

平成26年度は、大口の寄付が1件あったためである。

●会長

平成27年度と28年度を比べると、件数は20倍であるが、金額は8倍にとどまっている。これは、制度改正によるものと考えられるのか。

●事務局

昨年度は、返礼品の充実等に伴い、同一の方が全国のいろいろな自治体に、1万円・2万円と少額ずつ寄付するというケースが見られた。

●会長

施策8のふるさと坂出応援寄付のKPIについては、件数だけでなく、金額もセットで検証するというのも、1つの手法かもしれない。

●事務局

移住・定住の取組については、ご指摘のとおり、三豊市や東かがわ市などと比べると弱いというのが、本市の実態である。

坂出市の場合、高等学校が4校あり、番の州工業地帯をはじめとして企業もたくさんあるため、昼夜間人口比率が高いという特徴がある。平成22年の国勢調査では県内1位、平成27年の国勢調査では直島町に抜かれたが、113.1と平成22年よりも高くなっている。昼間人口がそれほど減っていないにもかかわらず、夜間人口が減っているという状況が、数値に表れている。

坂出市としては、交通利便性が良いという強みがあり、コンパクトなまちづくりを進める中で、駅周辺への住宅供給が必要ということで、昨年度からまちなか中高層住宅建設促進事業を開始している。この事業については、マンション事業者からも注目していただいております。今年度に入って1件申請があり、近く着工するという状況である。

坂出市に通勤・通学している方に、坂出市に住んでもらう施策を重点的に進めていかなければならないと考えている。移住・交流フェアなどについても、今後、力を入れていかなければならないと考えている。

●会長

基本目標2の子育て世代に選ばれるまちづくりの各施策については、概ね目標を達成したり改善できたりしているが、1つ気になるのが、施策24の女性の活躍推進事業である。

審議会等における女性委員の割合や女性消防団員数など、KPIの設定がすべて公共部門になっている。

県では、女性の活躍を推進している企業を表彰するなど、民間における男女共同参画を積極的に推進している。市の方でも、すぐに施策を実施したり、KPIを設定したりするのは難しいかもしれないが、民間に対しても何か出来ることがあるのではないかと思います。公共部門の施策だけで、女性の活躍推進を図るとするのは、少し違和感がある。

●委員

施策を考えるときに、近隣他市町の施策が参考になることは大いにあると思う。女性の活躍推進についても、高松市には既に表彰制度ができています。

丸亀市でも今年度、市内の企業に女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの専門家を派遣して、企業の相談を受けながら、女性が活躍しやすい職場づくりをするという事業を立ち上げたが、なかなか企業の手が挙がらないので、どのようにPRすれば良いかという相談を受けたところである。坂出市も企業はたくさんあるので、ぜひ民間に働き掛けや呼び掛けをしてほしい。

0から新しい施策を考えるのは、すごく難しいと思う。他市が行っている施策で良いと思うものは、どんどん参考にすべきである。坂出市は、全体的に出遅れている印象を受ける。いろいろな施策を行ってはいるが、他市も同様にいろいろな施策を行っているため、埋もれている感じがする。

●副会長

施策5の橋梁管理については、計画よりもかなり遅れているのだから、市民のためにも、橋が安全であることを示すような資料を提示していただきたい。

施策11の空き家バンクについては、地籍調査を行っている今の機会を捉えて、積極的に事業を進めてもらいたい。

施策23のカヌーのまち さかいで推進事業については、全国規模やアジア規模のカヌー大会を、宿泊を含めて開催できるだけの受け皿が整っているのかどうか分からないが、こういう大会を誘致するというKPIを設定する方が良いのではないかと。

また、施策23の自主防災組織支援事業について、カバー率が70%を超えているが、若い人が活動することが重要だと考える。年齢構成はどうなっているのか。

●事務局

橋梁については、長く使っていくために必要な改修等を行うことで、長寿命化を図るための計画であり、渡るのが危険な橋を放置しているということではない。

空き家については、昨年度、空き家の実態調査を行った。外観目視で行ったものであるが、老朽度合についてもランク付けをしており、それらを踏まえ、今年度、対策計画を策定することとしている。そのような中で、有効活用できる空き家については、空き家バンクの利用促進も図っていきたいと考えている。

施策23のカヌーのまち さかいで推進事業については、全国的にもカヌー競技場は数が少なく、府中湖カヌー競技場では、海外派遣選手の選考会等も行われている。さらに、2020東京オリンピックの事前合宿を誘致するうえで、現在のカヌー研修センターでは十分なスペースがないということで、今後、増築していこうと考えている。

自主防災組織について、年齢構成は把握できていないが、基本的には自治会をベースに自主防災組織を結成していただき、災害があったときに地域で自主的に活動するという取組を進めているところである。そういった状況から言えば、高齢の方が多いのではないかと思われる。

●委員

私の新聞社では、わがまち未来会議in宇多津という、住民の意見を聴く会議を開催した。町長にも同席してもらい、意見を聴いてもらったが、町長には喋らせない、一切反論させないという形式で行った。

宇多津の良いところは、住民が、町が小さいことは良いことだと認識し、小さいからこそ出来ることを実践しているところである。みんなが宇多津に住みたいと思う秘密の1つは、海側のにぎわいを創出するところと、山側の古い街並みを完全に分離していることだと思う。古街に新しい人を住ませようという発想は一切ない。そして、海側の住民と古街の住民が交流するイベントや事業を、町が積極的に行っている。これが、すごく上手く機能している。みんな、町が小さいことに誇りを持っている。古い街並みに新しい人を入れても、結局は出て行ってしまうということを、みんなが分かっている。ただ、決して排除している訳でもない。古い街並みに入りにくい人は新しい街に入ってもらい、お互いに交流するイベントをやっている。そういう風土ができています。

坂出市にそのまま当てはめるのは難しいが、どの年代が転入して、どの年代が転出しているのか、まずは人口動態をしっかりと分析する必要がある。宇多津町はしっかりと分析しており、20代や30代は転入超過の印象があるが、実は転出超過となっており、転出した人について一部追跡調査を行っている。こういう細かな調査を是非やってほしい。

施策12のまちなか中高層住宅建設促進事業については、現在、1事業者が申請中ということだが、建てる場所が住みやすい場所かどうか、売れるかどうかということが、マンション業者にとっては基本である。そう考えると、商店街の再生事業とセットで進めないと、業者は進出して来ないと思う。坂出市に住みたいと思ってもらうには、中心市街地、特に商店街の再生は絶対必要だと思う。

宇多津の古街にも古い商店街の跡があり、店はほとんどないのだが、不思議に歩いてみたくなる雰囲気がある。坂出の商店街も、一気に改善しなくても良いので、例えばアーケードをはずしてしまうとか、路面を改良するとか、そういう事も考えてほしいと思う。

空き家バンクについては、空き家の活用案をセットで提案してはどうか。ただ、こういうことは、不動産業者はなかなかやらない。宇多津では、建築士がやっているNPOがあり、そこが間に入って、古民家再生の提案等を行っている。こういうアプローチもやってみてはどうかと思う。

また、カヌーに関して言うと、府中湖のカヌー競技場は、日本屈指の競技場である。何故かと言うと、ダムのため流れがなく、水量も常に確保できる。もっと大都市圏に近ければ、おそらく国立競技場になってもいいくらいの良い競技場である。施策23のカヌーのまちさかいで推進事業もすごく大事であるが、競技場をもっと遊びやレジャーにも使えるのではないかと思う。競技をする前に、まず乗って楽しむ、そういう事業も並行してやってみてはどうかと思う。

●会長

いま宇多津の話の中で、建築士がやっているNPOの話があったが、それに関連して、最近、リノベーションまちづくりというのが浸透してきている。それは、空き家を完全にスクラップ・アンド・ビルドにするのではなく、部分改修やリノベーションを行い、それを上手くまちなかの活性化に繋げるという手法である。こういう事が出来る建築士やデザイナーの方の力は、非常に重要である。

県内では、大々的にリノベーションまちづくりをやって成功しているという事例はあまり聞かないが、岡山の間屋町という、むかし問屋街だったところでは、いろいろな構造変化により問屋として使えなくなった空き家をリノベーションして、カフェやアパレルの店等に業種転換して再生したという事例がある。丸亀市が去年、それに向けリノベーションスクールというものを行った。建築士の方などを積極的に呼び、実際にまちに出て、みんなで知恵を出し合うなど、スクール形式で実施した。こういう取組は、非常に良いと思う。すぐに形になるかと言うと、なかなか難しい面もあるが、こういう発想は重要であると思う。

宇多津の古街について、店はほとんどないが歩いてみたくなる雰囲気があるというのは、街路や壁面に統一感があるからだと思う。建築士の方からの話では、もう20年以上前、あそこのまちづくりを考えると、長野県の小布施の地域を参考にして、街路の設計等

を考えたと聞いている。建築士やデザイナーの方の知恵を上手く活用して、古いものを生かしつつ、まちづくりをしていくというのは、最近の流れでもあると思う。

●委員

施策13の就職フェアについて、坂出の場合は人口問題に尽きると思うので、とにかく坂出で就職してもらい、坂出に関わってもらい、そして坂出に住んでもらうという流れになっていけば良いと思う。就職フェアをすることによって、坂出の企業を、いかにたくさんの方の大学生、さらには高校生・中学生に知ってもらうのが大事だと思う。

ただ、坂出市の就職フェアは、他の就職フェアに比べると開催時期が遅い。香川県や高松市の就職フェアが先に行われると、県内の上場企業等は、どうしても香川県や高松市の就職フェアに参加してしまうし、開催時期が遅いと、間違いなく参加人数は減ってくる。そういうことを考えると、出来るだけ早い時期に開催した方が良いと感じている。また、夏休みに大学3年生を中心とした企業訪問バスツアーをやっているが、こういう積極的にPRしていく施策は大事であると思う。

施策10の新婚世帯家賃補助事業については、大いにやっていただいて、若い世代に住んでいただくことが重要だと思う。

それと人口動態に関し、関西圏に転出した方はそれなりに地元で就職する方もいるが、関東圏に転出した方はほとんど帰って来ないという状況があるので、そういう事も考えておく必要があると思う。

施策12のまちなか中高層住宅建設促進事業について、マンション事業者からは、マンションを建設する用地を探してほしいという相談を受けることがあるが、まちなかにはそういう土地はなかなか無い。駅の近くでマンション用地を確保しようとすると、10軒近くの家を売買・立ち退きが必要となるが、10軒の人からまとまって土地を売ってもらうのは、ほぼ不可能である。売りたい方もいれば、家を建てて間もない方、死ぬまでそこに住みたいと思っている方など、それぞれ状況は違うため、現実的にまとまった土地にはならない。そのため、高松でも丸亀でも同じ状況であるが、ポツンと土地が空くと駐車場が出来ると、上手く土地が活用できていない状況がある。坂出市も、同じような状況にあるのは間違いないと思う。最近、土地の所有権と使用権を分けるような報道もなされていたと思うので、そういうものを利用するとか、理想を言えば区画整理事業のような大掛かりなものをする地域と、古い街並みを保存する地域など、地域ごとに方針を定めていけば良いのではないかと考える。

●事務局

現在、本市では立地適正化計画を策定中である。区画整理事業について言えば、坂出市でも駅の南や東大浜・西大浜などで行ったが、実際には事業の終了まで結構な年数を要する。また、地価が右肩上がりのときは、事業でも含み利益というものが出てくるが、逆に地価が下がっている状況では、昔に比べると事業を行うのは難しい。

中心市街地については、接道が悪い宅地が多く、いま家が建っているところでも、昔は建てられたが、いま建てるとなると接道条件を満たしていないということで、建て替えるのが難しい状況もある。ご指摘のように、坂出市でも空き地が出てきているが、駐車場にも使えないような空き地も増えている状況である。本市はコンパクトシティの形成を目指しているが、そのような土地を今後、どのようにしていけば一番良いのか検討していかなければならないと考えている。

●委員

道が細く、救急車も消防車もなかなか入れないような建物も多いと思うが、解決策はなかなか無いと思う。

●委員

施策7のホームページ運営のKPIについては、現在のトップページのアクセス数ではなく、ホームページ全体のアクセス数に変更した方が良いと思う。

また、施策24の女性の活躍推進事業のKPIについて、市の係長級以上の女性職員の割合など、こういう数字の出し方は致し方ないとは思いますが、これこそ女性だから、男性だからという決め付けになってはいないかと考える。やはり、働いていく中で上司に相応しい方になっていくべきであって、例えば同じ能力がある場合、女性だからこの人を係長にしようとなると、これは不平等になっていると思う。女性が社会の中である程度発言する場を設けるというのは必要なことではあるが、だからと言って、女性が管理職にならないといけないというのは違うと思う。国においても同様であり、こういう形でしか測れないのかもしれないが、これでは男性のモチベーションを下げてしまうのではないかと危惧する。

一方で、審議会等における女性委員の割合というKPIについては、すぐにでも達成できるのではないかと考える。いくつかの団体に対して女性の委員を出してくださいと言えば良いのであり、やり方によって達成可能ではないかと考える。

なお、女性消防団員の項目について言わせていただくと、消防団員というのはほぼボランティアであり、皆さん仕事や子育てをしながら消防団活動をしているため、現状すごく厳しい。そこを分かっていたらうえて、女性消防団員の使命とは何かということ消防本部でも考えていただかないと、女性消防団員の数はなかなか伸びないと思う。実際に入ってみると、思っていた活動と違うものを求められ過ぎていて、なかなか活動できないというのが現状である。

あと、宇多津の話が出ていたが、宇多津の場合は土地柄で古い家並みが残っていたから、道路をどうしようか、街並みをどうしようかと考えられたのだと思う。坂出の場合は、坂出の持ち味をしっかりと生かしていかないといけない。例えばコンパクトシティとは一体何なのか、まちなかにマンションが建っただけでは広がりがないので、市として、どういうまちづくりをしたいのか。

東かがわ市では英語教育に力を入れていて、教育という観点で新聞等で多く取り上げられているし、三豊市では地域の人と子どもたちのふれ合いが盛んになっていて、これも新聞等で取り上げられている。そのため、坂出と言えこれという、例えばカヌーであれば、競技だけでなく市民も参画できるようにすれば、坂出はカヌーのまちということがもっと広がるかもしれない。

●事務局

KPIについて、ある程度達成の見込みが立つものについては目標値を上げていき、施策5の橋梁管理のように、目標値を設定した当時と状況が変わっているものについては、現実的な目標に変えていきたいと考えている。

●会長

今日出された意見は、総合戦略を進めていくうえでの根本的な話と、KPIの目標値についての議論と、大きくわけて2つの課題に関するものであった。根本的なものについては、すぐに改善できるようなものではなく、また、この会議だけで議論できるようなものでもないと思うので、まずはKPIについての検討が重要であると考えている。

ふるさと納税や橋梁管理など、このままのKPIでは疑問であるとの意見も出されたが、数字と言うのはあくまで実績を挙げていくための目安のようなものであり、それが最終目標ではない。上手くモチベーションを引き出すような数字を設定することが重要であるため、そのことを念頭にKPIを設定していただきたい。

施策32のがん検診事業についても、平成28年度よりKPIを算出する基となる分母の数字の取り方が変わっているということなので、こういうものについてもKPIを見直していただきたい。

したがって、KPIの目標値について、見直すべきものは見直していただき、また、今回の議論をもとに、現実性も踏まえて新しく施策を追加するものがあれば、提案いただきたい。

●委員

目標値を設定しているということは、坂出市としても覚悟を持って設定していると思う。施策25の地域包括ケアシステムの構築に向けた取組について言えば、認知症サポーター登録者数の目標値にあと2,000人足りない。今後、目標を達成していくためには、例えば毎月50人ずつ増やしていくとか、細かい進捗管理が必要になって来ると思う。

目標を達成できない理由が、例えば予算なのだとしたら、目標を達成するという覚悟を持って坂出市が設定したのに、予算が付かないとはどういう事なのか、という話になって来ると思う。もちろん、KPIが全てではないが、KPIの達成により全体が底上げされるという事を考えると、もっと緊張感を持ってやってもらいたい。

私は、総合戦略が他のすべての計画を引っ張っていると認識している。坂出市は、他市町と比べて人口が減っており、遅れをとっているということ踏まえれば、相当な馬力を持って巻き返しをしないと再生できないと思っている。

何か新しい試みにトライして出来ないのと、漫然とやって出来ないのとでは大きく違うと思うので、事務局が中心となり、それぞれの施策ごとに計画を立てて事業を進めていただくよう強く希望する。

●会長

資料について、詳細で分かり易い資料にはなっているが、一方で、全体を見られるような資料があれば良いと思う。今回、私は手持ち資料として自分で作成したのだが、改善しているのはオレンジ色、悪くなっているのは緑色というように、A4用紙1枚ぐらいにまとめると分かり易いので、概略版・詳細版それぞれを作っていただくと、みんなが情報を共有できて良いと思う。

これまでの議論を踏まえて、2回目の会議に向けて、KPIの修正案について検討いただきたい。

2. 議題

(2) その他

●会長

本日の議論を踏まえ、第2回の会議では、事務局より総合戦略の改訂案を提示していただき、改定案についてご議論いただきたい。日程については、11月頃と考えているが、後日、事務局において日程調整を行うこととする。

●事務局

会長におっしゃっていただいたとおり、本日の議論を踏まえ、事務局案として改訂案を作成してまいりたい。

また、資料も事前にお送りさせていただくが、ご指摘を踏まえて改善させていただく。

3. 閉会